

次世代データセンター それは、どのようなものでしょうか

...洗練されたリソースが、ワークロードを感知し、需要の変動を予測して驚異的なスピードで対応する、そのような**インフラストラクチャー**です



Simple. Adaptive. Responsive



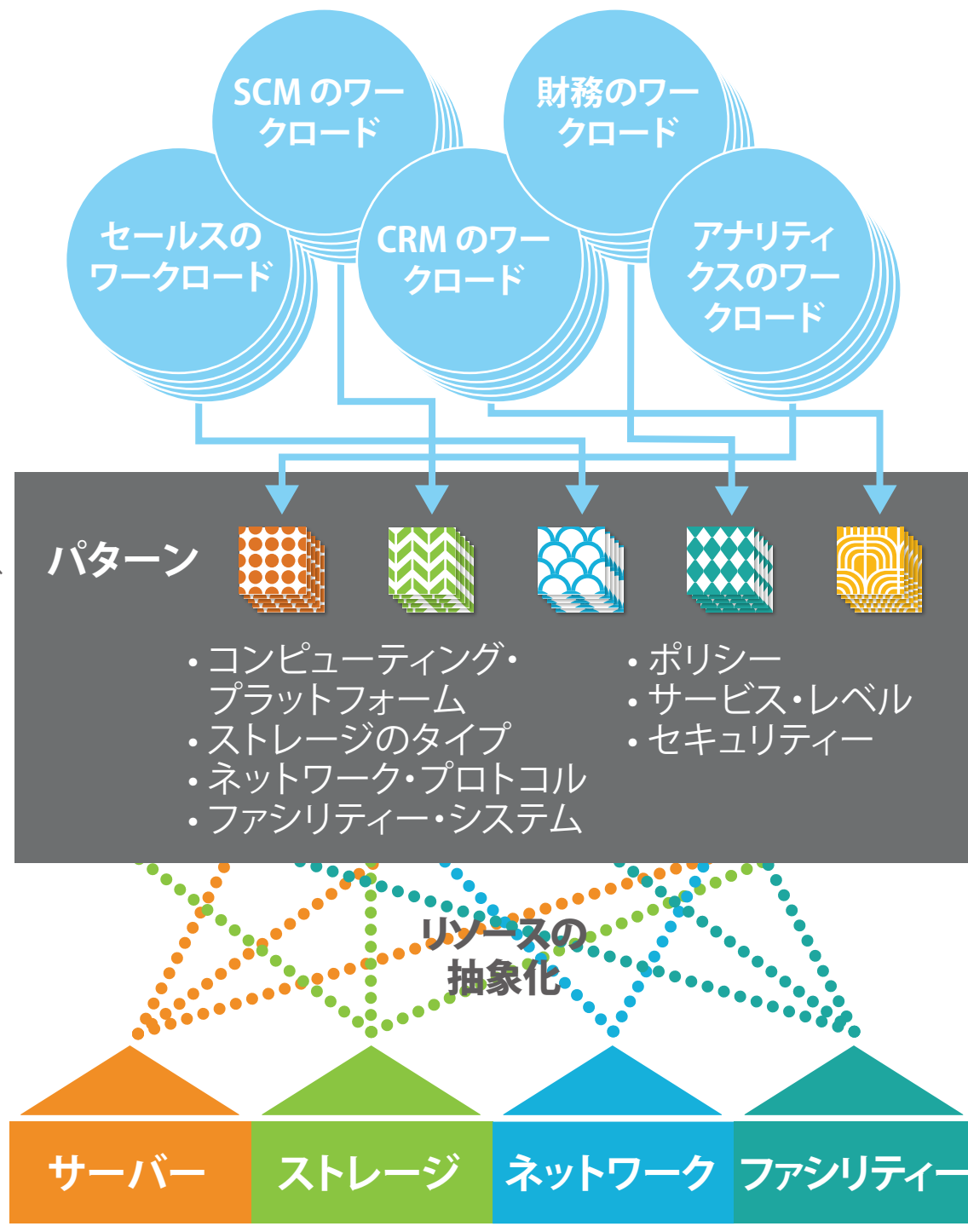
次世代データセンターは、これまでにはないレベルの変化にも**ダイナミックに対応し**、**テクノロジーの分断を解消し**、古いアーキテクチャーと新しいアーキテクチャーを統合して、**ひとつの有用なリソース群を組織します**。

豊富な知見を「パターン」として活用するソフトウェア定義環境

ワークロードの実行時に、パターンが動的に呼び出され、**必要なすべてのインフラストラクチャー・リソースを構成し**、ワークロードの要求にリアルタイムで対応します。

IBM のベスト・プラクティスと実績から導き出されたパターンは、プロビジョニングからインテグレーションまでの実装をスピードアップするために体系化されています。

リソースは物理的なハードウェアから抽象化され、それぞれのワークロードのニーズに**最適な形で継続的に提供**されます。



変化の速い世界に対応するテクノロジーと機能

連携し、一元化された管理

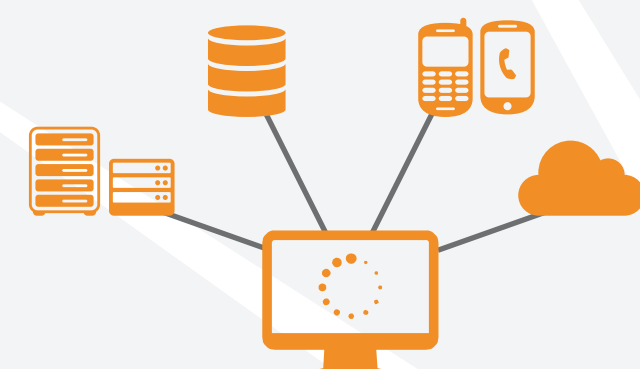
物理インフラストラクチャー、仮想インフラストラクチャー、ファシリティをリアルタイムに、単一コンソールで管理

継続的な可用性

99.999%の稼働時間が、高まる消費者の期待や、モバイルとソーシャルのデマンドに対応

コグニティブ・システム

人間の思考プロセスをシミュレートして、適応・学習し、複雑な問題を驚異的な速度で解決



サービスの最適化でイノベーションを実現

ハードウェアではなくサービスに重点を置くことで、ITへの投資を日々の運用ではなく、ビジネスの成長を推進する改革に向ける

1カ月のダウンタイムは27秒以内

エンドツーエンドを統括的に保護
セキュリティとコンプライアンスもソフトウェアで制御



次世代 データセンターへの進化の道程

1

集約化と統合化

- リソースの削減と仮想化
- 消費電力とスペースを削減
- リソース共有を実現
- 使用率の向上

2

最適化と標準化

- ITサービスの定義と優先付け
- ワークロードとサービスの標準化
- 標準の活用による一貫性と信頼性の高い展開と管理
- 自動化基盤の構築

3

単純化と自動化

- プロビジョニングと管理の自動化
- クラウドのプロセスを単純化
- 標準カタログを利用したセルフ・サービス機能の提供

4

動的な最適化

- ソフトウェア定義環境 (SDE) の実装
- アナリティクスとコグニティブ・コンピューティングの活用
- リソースを動的かつ包括的に編成
- 今後予想されるワークロードのために、ナレッジを取り込み、ソフトウェアで制御

詳細情報

IBM のホワイト・ペーパー「次世代データセンター：ソフトウェア定義環境でサービス最適化を実現」では、データセンターの進化を検討し IBM が考えると将来像を紹介しています。次世代 データセンターが、静かな IT インフラストラクチャーを、効果的にリソースを活用する、ワークロードを意識したインフラストラクチャーに、どのように革新していくのかをご覧ください。新しい仕事のスタイルとビジネス変革への可能性が開かれています。

